

福祉サービス第三者評価 評価結果報告書

株式会社グローバルキッズ
グローバルキッズ日吉園

平成29年 3月 3日

株式会社フィールズ

かながわ福祉サービス第三者評価推進機構 認証第6号

目次

評価結果総括

■ 評価方法	1
■ 総合評価	2
■ 評価領域ごとの特記事項	6
人権の尊重	
意向の尊重と自立生活への支援に向けたサービス提供サービス	
サービスマネジメントシステムの確立	
地域との交流、連携	
運営上の透明性の確保と継続性	
職員の資質向上	

分類別評価結果

■ 利用者本人（子ども本人）の尊重	9
■ サービスの実施内容	13
■ 地域支援機能	17
■ 開かれた運営	18
■ 人材育成、援助技術の向上	20
■ 経営管理	22

利用者本人調査

■ 利用者本人調査結果	24
-------------	----

家族アンケート結果

■ アンケートの概要	28
■ アンケート結果	29

事業者コメント

■ 事業者からのコメント	34
--------------	----

評価結果総括

法人名 株式会社グローバルキッズ
事業所名 グローバルキッズ日吉園
施設長名 金子 由理

□ 評価方法

自己評価方法

実施期間 平成 28 年 10 月 26 日～平成 28 年 11 月 8 日
実施方法 全職員が合議して自己評価を実施し、施設としてまとめた。

評価調査員による評価方法

実施日 平成 29 年 1 月 17 日、平成 29 年 1 月 24 日
実施方法 評価調査員が訪問し、施設の見学、資料確認及びヒアリング等で実施した。

利用者家族アンケート実施方法

実施期間 平成 28 年 11 月 25 日～平成 28 年 12 月 17 日
実施方法 施設から利用者家族へ配布し、返送は直接家族より評価機関に郵送してもらった。

利用者本人調査方法

実施日 平成 29 年 1 月 17 日、平成 29 年 1 月 24 日
実施方法 訪問調査時に保育見学、食事や活動場面を観察して行った。

□ 総合評価（優れている点、独自に取り組んでいる点、改善すべき事項）

〔施設の概要〕

グローバルキッズ日吉園は東急東横線及び横浜市営地下鉄日吉駅から徒歩 8 分の閑静な住宅地にあります。園は開園から 6 年が経過し、園庭が整備された平屋建ての園には、定員 63 名のところ、69 名を受け入れ、0 歳児は生後 57 日から保育を開始しています。1 歳から 5 歳までの定員は同じ人数のため、在園中の 5 年間は子どもも保護者もほぼ同じメンバーで過ごしています。幼児は異年齢のクラス構成で保育を行い、子どもたちは兄弟姉妹のように過ごし、園全体が家庭的な雰囲気となっています。

運営法人の(株)グローバルキッズは首都圏を中心に 100 ヶ所ほどの施設を事業展開しています。子どもたちの未来を背負っている責任を自覚して企業理念に「子ども達の未来のために」を謳っています。園では保育理念に「豊かに生きる力を育てる」を掲げ、子どもたちへの最大の使命としています。

職員は子ども一人一人の発達過程を理解したうえで、自主性・主体性を尊重する「子どもを中心とした保育」の実践を目指しています。職員は子ども一人一人の発達を保障できる環境を整えることに力を注いでいます。

《優れている点》

1. 子どもが自分で遊びを作りだし遊びこめる保育を実践しています

子どもの一人一人の個性を大切に、自主性・主体性を尊重する「子どもを中心とした保育」の実践を目指しています。保育目標の一つに「自分で考えるこども」を掲げ、行事練習や英語遊びの時間以外は子どもたちが自分で考えて自主的にのびのびと遊びを展開する自由活動の時間となっています。職員は子どもが遊びこめる環境づくりに力を注いでいます。

0 歳児以外の各保育室には前園長手作りのままごとハウスをはじめ、発達過程にあった高さ、感触、安全性を踏まえての絵本・自動車・伝承遊び・お絵かき・ブロック・キーボードなど様々なコーナーや、壁には身長に合わせた高さに固定されたおもちゃや鏡なども設けられています。また、用意されている玩具類は既成のものもありますが、子どもたちの発想や表現力を育てることを大切にして紙・鉛筆やハサミなどの文房具をはじめ、ままごとの材料にプラスチックチェーンや木の実を用意したり、職員手作りの様々な玩具、廃材を利用するなどしています。

園庭には木登りできる木や小さな築山・菜園が設置されています。また、3 年がかりで園庭全体を砂場のようなサラサラな砂に交換して、乳児から幼児まで安全に遊びこめるように改造しています。

2. 子どもたちは兄弟姉妹のように過ごし、家族のような温かい雰囲気の中で保育が行われています。

園では今の時代に求められているサービスの提供として、幼児は異年齢のクラス構成にしています。現代では少子高齢化によって、一人っ子も多く、兄弟も含め異年齢の子とかかわる機会は減ってきています。0・1・2 歳児は発達の差が大きいため年齢別の保育を行っていますが、3・4・5 歳児は同じクラスで過ごす異年齢のクラス構成で保育を実践しています。

異年齢の子どもたちでほとんどの時間を過ごすことで、子どもたちが相互に教えあい、学びあい、ともに育ちあうことを目的としています。年下の子どもは年上の子どもの活動を見て憧れや目標をもって真似しようとし、年上の子は年上として自覚を持ち、意欲的に活動に取り組めるようになっていきます。また、年下の子に対し遊びを教え、手伝う、見守るなどやさしく対応することを通して自信につながっています。さらに、園の定員は1歳から5歳まで同じ12名であり、子どもや保護者は園在籍中の5年間は、ほぼ同じメンバーで過ごしていることもあって子どもたちは兄弟姉妹のように過ごし、園全体が家族のような温かい雰囲気で包まれています。

3 ランチルームでの食事を全園児交流の場にして、子どもの自主性を育てています

園にはランチルームが設けられており、0歳児から5歳時まで食事やおやつを一緒に取っています。幼児は異年齢クラスとなっているので子どもたちは常時一緒に過ごしていますが、乳児は年齢別のクラスとなっているので、ランチルームでの食事時間は全園児交流の場となっています。

ランチルームには家庭やレストランで見かけるようなテーブル・椅子セットとクラスにあるような丈の低いテーブルと椅子の2種類が使われており、レストランのような雰囲気があります。基本的に「子ども中心の保育」を考え、一斉にそろって「いただきます」ではなくて、早く登園しておなかのすいた子どもや眠くなりそうな子ども、遊びが一区切りした子どもから食べ始め、席も子どもたちが自由に選んでいます。

職員がホワイトボードに書いた献立を示しながら、今日の献立やおかわりの出来るおかずを伝え、子どもたちはにぎやかに会話をしながら楽しそうに美味しそうに食べています。3歳児は、ご飯だけ自分で食べられる量を盛り付けますが、4・5才児は、おかずもご飯も自分たちで盛り付けます。下膳は3歳児以上は残したものはバケツに入れ、箸やスプーン、お皿や茶碗はそれぞれ決められた場所に置きます。2歳児はおやつの下膳だけの片付けに挑戦しています。年上の子どもたちの様子を見ながら自然に身につけていくようです。

《努力・工夫している点》

1. プロジェクトチームを立ち上げ、園庭改造を全員参加で取り組んでいます

保育目標の一つに「自分で考えるこども」を掲げ、職員は子どもが自分で遊びを展開できるように園庭でも遊びこめる環境づくりに努めています。

3年前から園庭改造のためのプロジェクトチームを立ち上げ園全体で取り組んでいます。園庭には木登りできる木や小さな築山・菜園が設置されています。また、昨年、今年度と園庭全体に砂場のようなサラサラな砂を入れ、乳児から幼児まで安全に遊びこめるように改造しています。

2. 1クラスを2グループに分けて、子どもの自主性を尊重した保育を行っています

幼児は3・4・5歳児を1クラスとした異年齢保育を実践しています。36名に保育士4人を配置していますが、職員状況が可能であれば1クラスを2グループに分けて保育しています。

グループ分けは年少・年中前期と年中後期・年長に分けた「英語プログラムであそぼ」のほかに、散歩などの園外保育は個々に自分で行きたい公園を選びグループを作るなど子どもの自主性を尊重しています。

《課題や改善することが期待される事項》

1. 地域への子育て支援サービスの情報提供について

園では地域への子育て支援サービス提供について前向きに取り組んでいきたいとの認識はありますが、情報発信が少ないため利用者がごく少数にとどまっています。情報誌には一時保育や育児相談・園庭開放・身体測定・絵本貸出・ベビーステーションなどのサービス提供を実施している園として掲載されていますが、近隣の住民向けに情報発信するまでには至っていません。一時保育の希望者はありますが、定員の枠内での受け入れのため受け入れ人数はごく少数にとどまっています。

また、園の見学時に保護者からの質問や相談に答えて育児相談になることはありますが、事前に予約が必要な育児相談はほとんど利用がありません。現代の保育園は園の保育に支障がない限り、地域の子育て家庭への支援を積極的に行うよう求められています。開園して6年を経過し、園運営も軌道に乗ってきている現在は、地域の子育て支援ニーズを把握し園の専門性を活かしたサービス提供について前向きに検討されることが期待されます。

2 保育方針の理解度やサービス内容の満足度を知る機会作り

園は開園7年目になりますが、園長や主任ほか多くの職員が開園当初から在籍し、保護者も入れ変わりが少ない中で職員と保護者との日常的なコミュニケーションは取られています。要望や苦情などは日常の会話の中で把握して素早く処理され、大きな問題はほとんど発生せずに過ごしてきました。

保護者アンケートでは「職員の対応について」の項目で「話しやすい雰囲気、態度であるか」の設問に、「満足」「どちらかといえば満足」で100%の高い評価を得ています。一方で「保育園の年間の計画について、保護者の要望が生かされているか」の設問では「満足・どちらかといえば満足」が61%に留まり、「どちらかといえば不満」が25%となっています。

年2回開催の園主催保護者会（クラス懇談会）や運営委員会が保護者の意向を知る機会になっていますが、園全体の満足度を知る機会は設けられていません。保育方針の理解度やサービス内容の満足度を知る機会を設けることが期待されます。

□ 評価領域ごとの特記事項

1. 人権の尊重

- ① 運営法人は企業理念に「子ども達の未来のために」を掲げています。それを踏まえ、園では保育理念に「豊かに生きる力を育てる」、保育目標として「元気でたくましい子ども・自分で考える子ども・思いやりのある子ども・明るくのびのびしたこども」を掲げて保育を展開しています。これらの理念、基本方針は子どもの人権や最善の利益を尊重したものとなっています。
- ② 運営法人から保育者の心構えとして「コンプライアンスハンドブック」が職員全員に配付されています。冊子には「保育マインド」「保育の姿勢」として子どもの人権に配慮した保育者としての姿勢が明記されており、「乱暴な言葉かけや対応をしてはならない。笑顔で接し、子どもの目線で優しい言葉で話す。丁寧にゆっくり話し、良い時は大いに褒め、悪い時は分かりやすい言葉でいけないことを簡潔に伝える。子どもへの関わり方を職員間で共有し、統一性のある保育をする。個々の子どもの成長に応じて子どもの感情や理解力に配慮した保育をする」とあります。また、年度末には職員全員が1年間の保育活動における自己評価表を作成し来年度につなげています。
- ③ 個人情報の取扱いや守秘義務については入社時に研修を受け、個人情報を含む書類は鍵のかかる棚に保管しています。保護者へは園で管理する個人情報の取扱いの説明を行い、園で使用する写真・ビデオの掲載などの承諾書を得ています。
- ④ 特に配慮を要する子どもについてはクラスミーティングで話し合い、毎月2回開催される全体ミーティングで個々の子どもについて、報告や検討をして情報を共有しています。また、障害児保育、食物アレルギーなど各種研修に職員が参加し、研修報告書を作成すると共に全体ミーティングの中でも報告し、参考にしながら保育に取り組んでいます。

2. 意向の尊重と自立生活への支援に向けたサービス

- ① 0、1歳児は個別の保育室、2歳児と幼児室はワンフロアをロッカーで大小の2つに区切り使用しています。幼児クラスは3・4・5歳児36人の異年齢クラスですが保育士が4人配置できる日については2グループに分かれて活動できるように工夫しています。
- ② 園は遊びについて子どもの自由な発想や集中力を大切にして、自分で考えて自由に遊びこむことが心身の成長につながると考えています。「遊ぶ」ではなく「遊びこむ」、「与える」ではなく「作り出す」を基本にモノや場所にとらわれない、ワクワクするような遊びの環境づくりに努めています。園庭には木登りできる木や小さな築山・菜園が用意されています。昨年、今年度と園庭全体に砂場のようなサラサラな砂を入れ、乳児から幼児まで安全に遊べるように改造しています。
- ③ 食事は完食を目指すのではなく、楽しみながら食べることを第一としています。保護者と連携しながら無理に食べさせないことを理解してもらっています。子どもたちの食への関心を高めるために0歳児から5歳児の年間の食育計画が作成されています。3歳児以上は毎月一度、旬の食材を使って作るクッキングや日本古来の伝統料理などを調理師や栄養士から教わっています。

3. サービスマネジメントシステムの確立

- ① 保育課程は保育理念、保育目標、園目標、保育方針のほか保育マインド（保育のこころ）や施設の運営方針、保育課程作成にあたっての留意点なども記載されています。また、子どもの発達過程を踏まえての保育者の配慮・援助・保護者との連携とともに、職員の質向上・地域の姿など保育全体が把握できるものになっています。保育課程は年度終わりにクラスミーティングの中で検討していますが、2～3年間は同じ内容になっています。
- ② 園では生後 57 日からの子どもを受け入れており、なれ保育は 8 日間を目安に行っていますが、保護者の状況や子どもの園での慣れ具合など考慮して柔軟に対応しています。0 歳児は生後 57 日からの受け入れていることもあり、人見知りなども比較的少なく、1 歳児についても、0 歳児の時の担任が 1 人、必ず持ち上がる体制をとっています。
- ③ 「園だより」「給食だより」「ほけんだより」を毎月発行しています。当日の保育活動は、乳児クラスは連絡帳で、幼児クラスはクラスボードにその日の活動予定を記入しています。クラス懇談会では担当保育士から日常の園児の様子を伝え、園長からは保育活動の中で保育理念や保育方針がどのように組み込まれているかなど丁寧に説明しています。日々の保育の様子は、写真や動画に撮って積極的に発信するように努めています。動画は保護者会で公開し、写真はインターネットに掲載し、パスワード設定を行い保護者は閲覧や購入が出来るようになっています。
- ④ 園長や主任ほか多くの職員が開園当初から在籍し、保護者との日常的なコミュニケーションは蜜に取れています。要望や苦情などは日常の会話の中で把握して素早く処理されています。要望や苦情があった場合は担任が受付して園長に報告し、速やかに対応しています。苦情受付票に記載し全体ミーティングなどで情報を共有しています。各クラスの保護者代表が出席して年 2 回開催される運営委員会が、保護者からの意見や要望を聞く機会になっています。

4. 地域との交流・連携

- ① 毎日出かける散歩での地域住民との交流や行事ハロウィンでの近隣の店舗との交流はありますが、園の行事に地域の人を招待するなどの交流には発展していません。運営法人の系列の地域保育園と共同で職員対象の救命救急研修を定期的に開催しています。また、港北区の幼保小の交流会や研修会、園長会議に出席し子育て支援ニーズの把握に努めています。
- ② 港区内子育て支援事業の案内冊子などに育児相談や園庭開放・身体測定・ベビーステーションの場の提供などの情報を提供していますが、近隣の住民向けに情報発信するまでには至っていません。事前に申し込みが必要ですが園庭開放、身体測定、育児相談、ベビーステーション、看護師・栄養士への相談など地域の子育て支援サービスを提供していますが、利用者が少なく、現在は他の関係機関や地域の団体との連携は少数にとどまっています。地域の子育て支援ニーズを把握し、園の専門性を生かしたサービス提供について前向きに検討されることが期待されます。

5. 運営上の透明性の確保と継続性

- ① 運営法人は企業理念に「子ども達の未来のために」を掲げ、東京・横浜・千葉・川崎に保育所や放課後対策事業を大規模に展開しています。ホームページや入園のしおり（重要事項説明書）には法人や本園の概要と運営情報などが公開されています。

- ② 運営法人では職員が心掛けるべき企業の信条である「クレド」を作成し、園では全体ミーティングの際に唱和をして理解に努めています。また、「コンプライアンスハンドブック」を全職員に配付し、意識向上に役立てています。冊子には企業理念をはじめ、行動規範・内部通報制度・保育施設の運営管理等が掲載されています。他園での不適切事例が報じられた時には、全体ミーティングで共有するほか、緊急性のある場合には業務連絡表などで速やかに職員に知らせています。
- ③ 運営法人の方針として保護者の負担の軽減のために自主的な保護者組織を勧めてはませんが、保護者の自主的な活動の援助として保護者専用のボードを用意し、保護者同士の情報交換に利用出来るよう配慮しています。保護者からの要請として謝恩会の参加や保護者主催のイベント募集のチラシなど園内に掲示しています。各クラスの保護者代表が出席して年2回開催される運営委員会が園の方針や状況を保護者に報告し、意見や要望を聞く機会になっています。

6. 職員の資質向上の促進

- ① 園の職員補充については全て運営法人が担当しています。採用時の新人研修についても法人が実施していますが、非常勤職員は園長が「園について・保育について」などで丁寧に説明しています。年度替わりに職員の異動が決定していて、新規に採用する職員の都合がつく場合には年度内に新採用職員を職場に配属するなど、柔軟な採用も実施し、引き継ぎがスムーズに行くように配慮しています。
- ② 人事考課、キャリアパス制度が設けられており、本人の階層に応じて目標設定シートを作成して自己評価し次年度につなげています。クラスリーダーは個人目標に加えて、「クラス目標」も設定しリーダーとしての役割を意識しています。園長は前期・後期の2回面談を行い、本人の成長につながるアドバイスを心がけています。
- ③ 年度ごとに職員研修受講計画を作成し実施しています。社内、社外の研修があり、職員はキャリアパス制度に基づく研修やその他ニーズに応じて年間を通して研修に参加しています。非常勤職員を含む全員が研修するものとして、消防署の指導によるAED研修があり、アレルギーについての研修は非常勤職員も希望によって参加しています。研修後は報告書を作成し、他の職員がいつでも閲覧できるようになっています。

分類別評価結果 (および理由)

※ ひょう太マークは各項目において下記の水準をあらわしています。また、各項目ごとにひょう太の数の理由のコメントがあります

3つ：高い水準にある 2つ：一定の水準にある 1つ：改善すべき点がある

I 利用者本人の尊重

I-1 保育方針の共通理解と保育課程等の作成



- ① 設置法人は企業理念に「子ども達の未来のために」を掲げています。これを踏まえて、園では保育理念に「豊かに生きる力を育てる」、保育目標として「元気でたくましい子ども・自分で考える子ども・思いやりのある子ども・明るくのびのびしたこども」を掲げて保育を展開しています。子ども一人一人の「いま」を理解し、自主性を尊重する「子どもを中心とした保育」及び、園の職員や法人、地域の人を含めた皆が専門性を越えて協力し合う「チーム保育」をサービス提供の基本として取り組んでいます。これらの理念、基本方針は子どもの人権や最善の利益を尊重したものと なっています。
- ② 運営法人から保育者の心構えとして「コンプライアンスハンドブック」が職員全員に配付されています。冊子には「保育マインド」「保育の姿勢」として子どもの人権に配慮した保育者としての姿勢が明記されています。子どもへの関わり方を職員間で共有し、統一性のある保育をすることや個々の子どもの成長に応じて子どもの感情や理解力に配慮した保育をすることなどが記載されています。
- ③ 保育課程は保育理念、保育目標、園目標、保育方針のほか保育マインド（保育のこころ）や施設の運営方針、保育課程作成にあたっての留意点なども記載されています。また、子どもの発達過程を踏まえての保育者の配慮・援助・保護者との連携とともに、職員の質向上・地域の姿など保育全体が把握できるものになっています。保育課程は年度終わりにクラスミーティングの中で検討していますが、2～3年間は同じ内容になっています。
- ④ 保育課程の保護者への説明は入園時に重要事項説明書を兼ねた「入園のしおり」を基にしています。入園のしおりの最後のページは保護者記入欄が設けられており保育理念、保育方針をはじめ、保育全般について詳細に確認をして同意を得るようになっています。
- ⑤ 保育課程を基に年間指導計画、月案、週案（日案）を作成しています。誕生日の子どもには本人のリクエストに応じて公園を決めるなど子どもの想いを尊重するように努め、子ども一人一人によって言葉のかけ方や対応の仕方も工夫しています。

I-2 子どもの発達や状況に応じた適切な援助の実施



- ① 入園前に保護者との個別面談を実施しています。面談は園長が担当し、保護者に児童票や健康診断書の提出を依頼するとともに、重要事項説明書（入園のしおり）を基に、園の保育方針やなれ保育の必要性、用意するものなど説明し同意を得ています。同時に「聞きたいことの一覧表」を用いて子どもの食事状況や必要な保育時間・土曜保育の必要性など詳細に把握しています。
- ② 保護者との面談で得た情報はクラスミーティングなどで担任や看護師、栄養士に速やかに伝えて情報共有し、個別保育計画に反映させています。児童票は事務室の施錠できる書庫に、クラスごとのファイルで保管し必要時には職員が閲覧できるようになっています。

- ③ 園では生後 57 日からの子どもを受け入れており、なれ保育は 8 日間を目安に行っていますが、保護者の状況や子どもの園での慣れ具合など考慮して柔軟に対応しています。毎年、0 歳児は 9 名、1 歳児は 3 名の新入園児枠がありますが、担当保育士制はとっていません。0 歳児は生後 57 日から受け入れていることもあり、人見知りなども比較的少なく、1 歳児についても、0 歳児の時の担任が 1 人、必ず持ち上がる体制をとっております。進級児や新しく入園した子どもには、園全体でかかわりを持つことを大切にすることができています。
- ④ 園での子どもの様子は送迎時に職員から口頭で丁寧に伝えるとともに、乳児は複式の連絡帳・幼児は連絡ノートを使用して保護者に伝えていきます。乳児の連絡帳は家庭や園での様子の他、健康状態・排便・食事など詳細に記録し、保護者と園とで保管できるようになっています。幼児の連絡ノートは家庭からは朝の体温、お迎え・特記事項、園からは 15 時の検温・ランチ・お昼寝・排便・特記事項などが記載されています。
- ⑤ 保育課程を基に年間指導計画、月案、週案が作成され、各計画には保育者の自己評価や評価、反省欄が設けられて次につなげています。計画はクラスミーティングで話し合い、クラス担任が作成しています。園では幼児（3 歳 12 名・4 歳 12 名・5 歳 12 名）を 1 クラスとして異年齢クラスの構成にしています。1 クラスでの保育になっていますが、年間、月案の指導計画は各年齢ごとに作成し、週案には年齢ごとの週の目標が立てられ、それぞれの年齢の発達保障がされるようになっています。特に月案には「長時間保育」の項目が設けられ、7 時 30 分から 20 時 30 分まで長時間を園で過ごす子どもへの関わりについての配慮事項も記載されています。行事計画には前回実施した際の保護者の要望や意見を活かせるように配慮し作成しています。

I-3 快適な施設環境の確保



- ① 平屋建ての園舎は南西の方向に向いて建てられ、ベランダから明るい陽射しが保育室に入り、風が通り抜ける作りになっています。ランチルームは保育室と厨房の間に位置していますが、明り取りの大きな天窗があり、明るい雰囲気があります。建物はバリフリーになっており、全体に白木が多用され、温もりが感じられます。各保育室はエアコンが設置され、空気清浄機、加湿器が置かれて子どもたちが快適に過ごせるよう配慮されています。また、0 歳児と 1 歳児室共用のトイレには沐浴設備と温水シャワーが設置されています。温水シャワーは園庭にも設置されプール遊びや外遊びなどで活用しています。
- ② 各保育室はクラスの担任が清掃し、トイレは職員が当番で清掃しています。ランチルームや玄関・廊下などは「清掃一覧表」に基づいて、各クラスで分担したり当番が清潔にしています。「清掃一覧表」には毎日清掃するテーブルやイス、床やカーペット、玄関の窓など 19 ヶ所があり、週に一回は木の壁と壁紙の境目・玄関の引き戸など、年末だけの木の壁の清掃が明記されています。園庭の草むしりは園長自らも行い、園庭の木の剪定は業者に依頼しています。玄関やベランダの階段などに砂が積り、職員が掃いているのを見て、年長児が自主的に掃除してくれています。
- ③ 0、1 歳児は個別の保育室、2 歳児と幼児室はワンフロアをロッカーで大小の 2 つに区切り使用しています。幼児クラスは 3・4・5 歳児 36 人の異年齢クラスですが保育士が 4 人配置できる日については 2 グループに分かれて活動できるように工夫しています。

I-4 一人一人の子どもに個別に対応する努力



- ① 0～2 歳児については個別指導計画を作成しています。一人一人についてクラスミーティングで話し合い、月ごとに目標決めて保育しています。0 歳児クラスでは離乳食から幼児食への移行時期など子どもの発達の様子を踏まえて、保護者と連携し、同意を得ながらきめ細かく柔軟に計画を進めています。幼児についても特別に配慮が必要な場合は個別指導計画を作成しています。

- ② 子どもの児童票（家庭状況や生育歴など）や健康に関する記録、発達経過記録などの基本情報は事務室に保管されて全職員が必要時に閲覧できるようになっています。事務室は職員が常にいることが多いですが、重要な個人情報が含まれている書類は施錠できる書庫に保管されています。発達経過記録は年令ごとの子どもの心身の発達状況を3ヶ月ごとに詳細にチェックできる表とともに子どもの全体像・保育者の配慮や次年度への参考事項が記述されて、次年度につながっています。
- ③ 園では全クラスが複数担任制をとっており、進級時には担任の一人が必ず持ち上がる仕組みとなっています。次年度の担任が決まると、必要に応じて書類を作成、または口頭での引継ぎをしています。在園児数が69名で、毎年の新入園児は12名と全体の入れ替わりも少なく、園庭やランチルームで日々、一緒にすごし、園の方針としてチーム保育を謳っているため、保育士は担当する子どもだけでなく、他クラスの子どもについても把握できている状況があります。

1-5 保育上、特に配慮を要する子どもへの取り組み



- ① 特に配慮を要する子どもについては、クラスミーティングで話し合い、毎月2回開催される全体ミーティングで個々の子どもについて、報告や検討をして情報を共有しています。また、障児保育、発達支援、インクルージョンなどの研修に職員が参加し、研修報告書を作成すると共に全体ミーティングの中でも報告し、参考にしながら保育に取り組んでいます。
- ② 現在、障がい児の在籍はなく、過去3年間では自閉症・肢体不自由の子どもを受け入れがありました。毎年の新入園児枠が0歳9名と1歳3名しかない中で、障がい児を受ける枠がほとんどない状況があります。自閉的で足が不自由な障がい児の在籍時にはクラス担任が全員で係わり健常児と変わらない生活が送れるように「特別扱いほしくない、行事など他児と同じように参加する」を基本に、本人の苦手な音や眠る場所などに配慮して支援しました。同じクラスの子どもたちも一緒に過ごす中で、手をつないでくれるなど自然に受け止めていました。
- ③ 虐待への対応については運営法人の「危機管理マニュアル」の中に「虐待防止マニュアル」が整備されています。開園以来、虐待を疑われるケースは出ていません。朝の視診は登園時、担任が行うほか、看護師が毎日、必ず、全クラスを廻って丁寧に子どもたちの視診を行っています。また、外遊びの後は着替えるなど子どもの全身を見る機会を設けています。
- ④ 食物アレルギー疾患のある子どもへは横浜市の「食物アレルギー対応マニュアル」を基に対応しています。入園前の個別面談の中で食物アレルギーについて確認し、保護者から医師の診断書と指示書の提出を得て除去食を提供しています。除去食提供の際はアレルギー対応児の場所を固定し、専用のテーブル、トレイに名前と除去内容のメモをつけて、調理員・保育士でチェックして誤食を防止しています。今年度はアレルギー対応の必要な子どもは在籍していませんが、全職員が緊急時に備えて、アレルギーのショック症状を緩和するエピペンの使用方法受講と勉強会を定期的に行っています。また、区などから送られてくる他園での事故例を参考にしています。
- ⑤ 現在、外国籍の子どもはいませんが、過去3年間では4名在籍していました。文化の違いで豚肉が食べられない場合は除去食を提供し、言葉が通じにくい場合は電子機器で単語変換したり、保護者や法人の中で言葉のわかる人に通訳を依頼してコミュニケーションに努めました。子どもたちには保育士が挨拶など簡単な言葉を一覧表にして伝え、外国籍の子どもとのコミュニケーションできるように努めていました。

I-6 苦情解決体制



- ① 運営法人の「運営業務マニュアル」の「保育に関する諸対応」の中に「ご意見、ご要望、苦情」の項目が設けられており、受付から解決まで決められています。保護者からの要望や苦情については基本的に職員との日々のコミュニケーションの中で受け止められています。園は開園7年目になりますが、園長や主任ほか多くの職員が開園当初から在籍し、保護者も入れ変わりが少ない中で、調査日にもまるで、家族のような雰囲気では話が弾んでいました。園長は登降園時に玄関前の事務室から保護者や子どもたちと必ず挨拶し、保護者も気軽に話かけていました。今回の第三者評価保護者アンケートでは、「職員の対応について」の項目で「話やすい雰囲気、態度であるか」の設問に、「満足」「どちらかと言えば満足」で100%の高い評価を得ています。
- ② 要望や苦情対応について、保護者には入園時に入園のしおりを基に説明し同意を得ています。入園のしおりに「保育内容に関する相談・苦情」について記載し、受付担当は園長、解決担当については法人保育事業部とし、第三者委員を紹介しています。また、保育園以外の相談苦情窓口として港北区こども家庭支援課を紹介しています。
- ③ 要望や苦情があった場合は担当が受付して園長に報告し、速やかに対応しています。苦情受付票に記載し全体ミーティングなどで情報を共有しています。各クラスの保護者代表が出席して年2回開催される運営委員会が、保護者からの意見や要望を聞く機会になっています。開園以来大きな苦情はありませんが、年長児の「お泊り保育」が諸事情により中止になった際には、保護者と運営法人の担当者、園職員で話し合いを持ち、「スペシャルデー」として形を変えて実施することになりました。

Ⅱ サービスの実施内容

Ⅱ-1 保育内容【遊び】



- ① 園は遊びについて子どもの自由な発想や集中力を大切にしています。自分で考えて自由に遊びこむことが心身の成長につながると考え、ワクワクするような遊びの環境づくりに努めています。各保育室には年齢に合わせたコーナーがいくつも設けられており、子どもたちは好きなコーナーで自由におもちゃを取り出して遊ぶことが出来ます。
- ② 子どもの発想や希望から何をしたいのか把握し、日常の保育プログラムや行事に取り入れています。公園では小枝を使って魚釣りごっこなど自由な発想で楽しんでいます。3・4・5歳児の日常的な異年齢保育によって年長児から遊びのルールや順番など、見よう見まねから自然に学べる環境を大切にしています。自分でやろうとする気持ちを大切に見守り、励ましたり、誘導したり、保育士との信頼関係をもとに安心して遊べる環境に努めています。また、危ないこと、やってはいけないことなどもしっかりと伝えています。
- ③ 栽培する野菜は毎回子どもたちの希望を募り決めていきます。畑の土作りから始まります。とうもろこし、ミニトマト、きゅうり、枝豆、園庭のぶどうに挑戦しました。収穫した野菜は、育ててきた達成感と食べてみたいという気持ちも大切にした食育活動につなげています。保護者からカブトムシの幼虫を飼育活動として貰い受け、餌や食べかすの世話など幼虫からカブトムシに成長する飼育過程を楽しみながら観察しました。
- ④ 基本的に天気の良い日は毎日散歩に出掛けます。公園では地域の人や子どもたちとの交流や道中で出会った人や工事の人たちとも元気に挨拶を交わしています。毎日の散歩コースで見る風景や環境、公園先で得られる木の実や草花、広葉樹の変化、虫の種類など季節の移り変わりから自然を学びとる機会を沢山得ています。戸外活動を通して自然に触れ五感の刺激を高める遊びを展開しています。
- ⑤ 子ども同士のケンカやトラブルには、安全を確認しながらそれぞれの気持ちを聞いて仲立ちをしています。できるだけ子どもたち同士で解決出来るように促します。同じ環境でのランチや園庭での遊びなど、常に異年齢の子どもたちが関わりを持ちながら過ごしています。職員は、全ての子どもにも公平に関わりすぎないように見守り、信頼関係を築いています。

Ⅱ-1 保育内容【生活】



- ① 食事は完食を目指すのではなく、楽しみながら食べることを第一としています。保護者と連携しながら無理に食べさせないことを理解してもらっています。ランチルームでの食事時間が、みんな楽しく美味しく食べられるように職員たちは援助や優しい声をかけて見守ります。乳児の授乳は時間で決めるのではなく、欲しがる時に抱っこをしながら子どものペースに合わせて与えています。
- ② 子どもたちの食への関心を高めるために0歳児から5歳児の年間の食育計画が作成されています。3歳児以上は毎月一度、旬の食材を使って作るクッキングや日本古来の伝統料理など調理師や栄養士から教わっています。栄養士は、運営法人内で行われる献立・盛り付けコンクールなどに毎回参加しています。季節感のある献立や食欲が湧く盛り付けなど、子どもたちが食べることに関心が持てるような献立の工夫に努めています。

- ③ 栄養士や調理師は子どもの喫食状況を把握するために、昼食やおやつ時間に子どもの様子を見て回ります。野菜を型抜きしたり、彩りを良くしたり、食べてみようかなと興味を持てる工夫をしています。献立は2週間毎のサイクルで運営法人から毎月送られてきます。園独自の「給食だより」を毎月1日に発行しています。献立作成のポイントとしての栄養バランスや摂取量、季節の食材、普段の食事の注意、旬の食材を利用した子どもに人気のレシピなど盛りだくさんの情報を提供しています。また、1年に1回、保育参加の日に園児と一緒に試食が出来ます。日々の昼食、おやつ献立サンプルは展示ケースに入れて玄関に展示しています。
- ④ 午睡は日常の保育室で、ロールカーテンを閉め、オルゴールの音色を聞きながら落ち着いて眠れる環境にしています。寝付きの悪い子どもにはトントンとして落ち着かせたり、眠れない子どもや早く起きてしまった子どもには、別室で絵本を読んだり、静かに遊んで対応しています。乳幼児突然死症候群対策には0歳児クラスまでは5分おき、1歳児クラスは10分おきに「顔色、息の確認、体位をかえる」などチェック表に記載し、注意をしています。5歳児は就学に向けて1月より午睡を少しずつ減らし、調整をしています。
- ⑤ 2歳児までのトイレトレーニングは一人一人のリズムを把握し、無理強いのないトイレ誘導でパンツ使用に移行出来るようにしています。0歳児もトイレに興味のある子どもには、便座に自由に座らせてそばで優しく声掛けをしています。園での様子を連絡帳や口頭で伝え、また保護者からの要望も聞き入れながら保護者と園との連携を丁寧に行っています。おもらしをした子どもには、他の子どもに気づかれないように素早く対処しています。

II-2 健康管理・衛生管理・安全管理【健康管理】



- ① 園には看護師が配置されており、子どもの健康管理を担当しています。健康管理に関するマニュアルが整備されています。健康観察記録があり毎朝登園してくる子どもの健康状態が記録されます。注意を要する子どもには、職員全てが共有し様子を見ながら対応しています。既往症や予防接種などについては、入園時に保護者からの情報提供で一人一人を把握していますが、常に新しい情報も保護者から得られるように努めています。
- ② 歯磨き指導はしっかり歯ブラシが持てるようになる2歳児から行います。2歳児以下の子どもは食後にお茶を飲むようにし、食後の歯磨きの習慣をつけることを大切にしています。虫歯予防デーには看護師がペーパーサートを使って歯磨きの大切さをわかりやすく伝えています。
- ③ 年間の保健計画が作成されています。健康診断は春と秋の2回行われ歯科健診は6月に1回行われます。0歳児の健診は毎月行われています。結果は、児童表に記録し個別に保護者へその日の内に伝えています。身体測定は毎月、身長、体重の測定を行い、この結果も児童表と連絡帳に記載されます。診断の結果に問題のあった子どもには個別に園医や看護師からのアドバイスをもらえるよう配慮しています。常に保護者と園との連携を蜜にし、成長の確認をしています。
- ④ 感染症対応マニュアルが整備されています。保護者へは登園停止基準や保育中に感染症などの疑いが生じた場合の書類作成や提出方法など面談時に説明しています。保育中に感染症が生じた場合は、保護者に速やかに連絡を入れ、別室に移動し、感染の広がりを防いでいます。園の保護者には、症状や状況、また予防法など詳細について園の掲示板に掲示し注意を喚起しています。また、毎月配付の「ほけんたより」で感染症の予防や家庭での役割などもわかりやすく伝えています。市や区内における発生状況などの最新情報は、職員らに速やかに伝達され、対応方法や対処方法など看護師による勉強会が催されています。

II-2 健康管理・衛生管理・安全管理【衛生管理】



- ① 衛生管理マニュアルが作成されており、年度の切り替時にクラスごとに話し合いをして見直しを行ったうえで、園全体で次年度に向けて再確認をしています。看護師の指導のもとに年度の初めには新人職員に嘔吐処理の仕方や処理キットの場所の確認をしています。全職員に手洗いの仕方や食中毒の予防、耳と目の衛生指導など時期的に発症しやすい感染症などの対応についての勉強会を設けています。
- ② 掃除の一覧表が作成されています。各保育室、廊下、玄関など掃除の順序に基づき、園舎内外全ての衛生管理に努めています。

II-2 健康管理・衛生管理・安全管理【安全管理】



- ① 事故や災害に備えたマニュアルが作成されています。保育室内の戸棚は備え付けで、棚に置かれた備品などはすべり止めで固定し、落下や転倒の防止が施されています。毎月の避難訓練実施計画が作成されており、内容、発令者、実施内容など細かく記載されています。地震、火災、不審者侵入・自然災害など様々な想定で訓練を行っています。また、年に1回9月の防災月に合わせて保護者対象に避難場所での引き渡し訓練をしています。園から災害時に避難場所や安否情報を発信する「すぐメール」のテスト配信なども含めた訓練です。年に1回、消防署指導の元で救急法を学んでいます。
- ② 子どもの怪我については看護師の指導のもと、軽症・重傷に関わらず、速やかに適切な対応を行い、保護者に状況や対応を必ず報告しています。軽症の怪我の場合は「ケガ報告書」に怪我の種類、部位、受傷内容、発生場所、発生状況、応急措置、改善策など細かに記録しています。重傷の場合は「事故記録簿」に記載され、対応処置、経過観察も含め、保育活動の注意点など職員間で共有し怪我や事故防止につなげています。ヒヤリハットの記録も作成されています。救急機関、医療機関の病院リストに病院の専門情報も詳しく記載したリストを作成しています。
- ③ 不審者防止対策として出入り口を施錠し、一般の人や業者納入者などの来園時にはインターホンで確認をしています。保護者は玄関でカードをかざし、パソコンで確認をしています。毎月の避難訓練にも不審者が園に侵入した時の対応や役割分担などを決めた訓練をしています。また、年に2回スクールサポーターによる不審者対応訓練や防犯についての話も子どもたちと一緒に学んでいます。港北区や近隣の警察署から不審者の情報が入ります。保護者へは速やかに口頭や園の重要掲示板で知らせています。

II-3 人権の尊重



- ① 保育室は幾つものコーナーで仕切られているため、子どもが一人になりたい時にゆっくり一人で過ごすことが出来ます。また、ロッカーとロッカーの間、奥まった絵本コーナー、手洗い場前など他の子どもや保育士の視線を気にせずにくつろげる場所は確保されています。
- ② 個人情報の取扱いや守秘義務については入社時に研修を受けます。保護者へは園で管理する個人情報の取扱いの説明を行い、園で使用する写真・ビデオの掲載などの承諾書を得ています。承諾の得られない子どもの写真などは、必ず外して掲載しています。また、毎日のスナップ写真はパスワードで管理されているパソコン画面で見ることが出来、購入も出来ます。保育参観で園児の写真を撮るのは禁止しています。個人情報を含む資料は鍵のかかる棚に保管し、職員がファイルを見る時は声をかけて閲覧するようにしています。

- ③ 性差に関しては性別関係なく基本的に月齢順の保育活動を行っていますが、子どもが選択出来るものは子どもたちで決めています。遊びや散歩に行くときも子どもの意思を尊重して、好きな遊びや好きな友達と手をつないで行います。母の日、父の日の設定はせず、中間の月に「ありがとう制作」の日を設け、日頃お世話になっている人にプレゼントする作品を作っています。

Ⅱ-4 保護者との交流・連携



- ① 年2回開催の園主催保護者会（クラス懇談会）や個人面談・季節行事・毎月発行する「園だより」・「ほけんだより」・「給食だより」などで園としての保育方針や保育内容を説明しています。園は1歳から5歳までの定員は同じ12名であり、子どもや保護者は園在籍中の5年間は、ほぼ同じメンバーで過ごしていることもあって、保護者との日常的なコミュニケーションは蜜に取れていますが、年度ごとに園全体の満足度を知る機会は設けていません。園の保育方針の理解や保育内容の満足度を知るアンケートの実施などが期待されます。
- ② 園での子どもの様子は2歳児までは毎日の連絡帳で伝えています。3歳児以上は個別の連絡カードに朝の検温、送迎者の時間、15時の検温、ランチ、お昼寝、排便など記入していきます。毎日の保育活動はクラスのボードに記入し、迎えの際に一日の様子を伝えています。特別に必要な連絡事項がある時は掲示版で伝えています。個人面談は年に1回催されますが、保護者の要望があればいつでも希望に沿えるよう柔軟に対応しています。
- ③ クラス懇談会（保護者会）は年に2回開催しています。クラス全体の様子、成長を感じられる様子、今後の保育や行事など日頃の動画なども含めて伝えるとともに保護者の親睦も図っています。出席できなかった保護者には資料を配布し、懇談会の様子などを口頭で伝えています。
- ④ 保護者からの相談はプライバシーが守れる場所でゆっくり相談に応じています。内容によって、担当保育士が適切な対応が出来ない場合は園長、主任、看護師、栄養士などで検討し回答しています。相談内容は記録し、相談の継続として経過の様子や支援の仕方など保護者との連携を蜜にしています。
- ⑤ 年度初めの4月に年間行事予定表を配付しています。行事ごとに事前に詳細を知らせています。保護者の都合がつきやすいように夏と冬の2回、保育参加の機会を設けています。毎回沢山の保護者の参加があり、保育方針や保育の現場の理解を得ています。
- ⑥ 運営法人の方針として保護者負担の軽減のために自主的な保護者組織を勧めてはませんが、保護者の自主的な活動の援助として保護者専用のボードを用意し、保護者同士の情報交換に利用出来るよう配慮しています。保護者からの要請として謝恩会の参加や保護者主催のイベント募集のチラシなど園内に掲示しています。各クラスの保護者代表が出席して年2回開催される運営委員会が園の方針や状況を保護者に報告し、意見や要望を聞く機会になっています。

Ⅲ 地域支援機能

Ⅲ-1 地域のニーズに応じた子育て支援サービスの提供



- ① 毎日出かける散歩での地域住民との交流や行事ハロウィンでの近隣の店舗との交流はありますが、園の行事に地域の人を招待するなどの交流には発展していません。運営法人の系列の地域保育園と共同で職員対象の救命救急研修を定期的で開催しています。また、港北区の幼保小の交流会や研修会、園長会議に出席し子育て支援ニーズの把握に努めています。
- ② 港北区内子育て支援事業の案内冊子などに育児相談や園庭開放・身体測定・ベビーステーションの場の提供などの情報を提供しています。事前に申し込みが必要ですが、園庭開放、身体測定、育児相談、ベビーステーション、看護師・栄養士への相談など地域の子育て支援サービスを提供しています。一時保育の希望者はあるものの、定員の枠内での受け入れのため受け入れ人数はごく少数にとどまっています。1～2歳児の親の交流イベント「にこにこ広場」に他園と連携して参加し遊びのコーナーやパネルシアターを担当するなどの協力をしています。

Ⅲ-2 保育園の専門性を活かした相談機能



- ① 園の見学時に保護者からの質問や相談に答えて育児相談になることはありますが、育児相談や園庭開放など園の地域への子育て支援機能について、近隣の住民向けに情報発信するまでには至っていません。地域の子育て支援ニーズを把握し園の専門性を活かしたサービス提供について、前向きに検討されることが期待されます。
- ② 地域への子育て支援サービス提供については今後、前向きに取り組んでいきたいとの認識はありますが、情報発信が少ないため利用者が少なく、現在は他の関係機関や地域の団体との連携は少数にとどまっています。関係機関との窓口は園長が担当し、園医や地域の医療機関、団体機関などのリストは職員室に掲示してあります。幼保小の交流会議に出席し情報は交換していますが、地域の団体機関、民生委員児童委員、巡回警察官やボランティア組織などとの日常的な連携体制は出来ていません。相談内容によっては必要に応じて団体機関や関係機関に速やかに連携が取れるように日常的な連携体制の整備が期待されます。

IV 開かれた運営

IV-1 保育園の地域開放・地域コミュニティへの働きかけ



- ① 園は隣接して施設のオーナー宅があり、園も自治会に加入しています。ベビーステーションとして地域の親子がオムツ交換などに使えるようにしたり、給食の食材は近隣の業者に発注する、積雪時には園の前道路の除雪をする、ゴミ集積所の清掃する、朝晩の送迎時に保護者の車が近隣に迷惑にならないようにと近くの駐車場を借り上げるなど、地域との良好な関係作りに努めています。
- ② 行事ハロウィンの際にはオーナー宅はじめ、地域の土建屋さん・八百屋さん・肉屋さんなどの協力を得て実施し、子どもたちは仮装してお菓子をいただきに回り楽しい一時を過ごしています。職員は前日に子どもに配るお菓子を持って協力者宅に依頼に行き、終了後はお礼に訪問しています。また、4年ほど前から年長児は子どもたちが就学する学校の一つである日吉台小学校へ他園と一緒にいき、交流しています。近くの神社からは七夕の笹を頂いています。
- ③ 地域の住民への理解促進のための取組進めています。開園してまだ6年であり、地域の人たちの招待や定期的な交流に至っていません。施設が地域の人たちにとって貴重な社会的資源であることを自覚して、地域住民や福祉施設との交流など前向きに取り組まれることが期待されます。

IV-2 サービス内容等に関する情報提供



- ① 園の情報は運営法人が作成した系列保育園共通のパンフレット、ホームページ、地域情報誌の幼稚園保育園ガイド・港北区ホームページで提供しています。法人のホームページは広報部門が担当していますが、施設紹介として企業理念・保育理念・保育園の概要・保育目標年間行事・食育・料金など詳細に掲載されて園の全体像がわかりやすく紹介されています。また、メディアが取材にきてユーチューブで紹介されることもあります。
- ② 見学の担当者は園長ですが不在の場合は主任が対応し、見学希望者の電話での問い合わせには職員の誰もが対応しています。見学日については希望者と園の日程を調整して決め、時間は子どもが活発に活動している午前中を勧めています。見学希望者は4月から12月までに100人程になりますが、少人数制で一度に3組ほどまでとして丁寧に対応しています。見学時には系列保育園共通パンフレットを基に、遊びや生活を大切にして保育を展開していることを伝えています。希望者とは保育園探しの悩みに加えて育児相談のような会話になることも多く、時間をかけて丁寧に話を聞いています。

IV-3 ボランティア・実習の受け入れ



- ① マニュアルが整備され担当は園長です。ボランティアの受け入れについては区の「港北区OPEN! 港北の保育園! 参加施設情報」に受け入れ施設として表明していますが、実際にボランティアが来園して活動した実績はありません。正式にボランティア登録をしてはいませんが、行事の際に退職した職員が自分の得意分野のピアノ伴奏を引き受けて職員や子どもたちとの交流をしてくれています。また、園庭の砂の補充に際しては保護者に協力を依頼して、父親が快く協力してくれています。ボランティア受け入れの姿勢はありますが、積極的に取り組むまでには至っていません。前向きに取り組むことが期待されます。

- ② 実習生受け入れマニュアルが整備され担当は園長です。年度に1人くらい保育士希望の実習生があり、事前のオリエンテーションをしっかりと行うことを大切にしています。園の基本方針や守秘義務などを説明し、本人の希望とすり合わせて実習を進めています。また、実習生がなじみやすいように、話かけを多くし、信頼関係が築けるように配慮しています。本園での実習後に職員として働くようになった実習生もいます。

V 人材育成・援助技術の向上

V-1 職員の人材育成



- ① 園の職員補充については全て運営法人が担当しています。採用時の新人研修についても法人が実施していますが、非常勤職員は園長が「園について・保育について」など丁寧に説明しています。年度替わりに職員の異動が決定していて、新規に採用する職員の都合がつく場合には年度内に新採用職員を職場に配属するなど、柔軟な採用も実施し、引き継ぎがスムーズに行くように配慮しています。また、人事考課、キャリアパス制度が設けられており、本人の階層に応じて目標設定シートを作成して自己評価し次年度につなげています。クラスリーダーは個人目標に加えて、「クラス目標」も設定しリーダーとしての役割を意識しています。園長は前期・後期の2回の面談をおこない、本人の成長につながるアドバイスを心がけています。
- ② 年度ごとに職員研修受講計画を作成し実施しています。社内、社外の研修があり、職員はキャリアパス制度に基づく研修やその他ニーズに応じて年間を通して研修に参加しています。非常勤職員を含む全員が研修するものとして、消防署の指導によるAED研修があり、アレルギーについての研修は非常勤職員も希望によって参加しています。研修後は報告書を作成し、他の職員がいつでも閲覧できるようになっています。
- ③ 運営法人は海外研修制度も設けており本園でもほぼ毎年1人は参加しています。北欧やイタリアなどで得た感性を磨く機会とし、日常の保育で取り入れられることは実践しています。しかし、昨年度の保育士自己評価結果では研修や知識の獲得について、充分ではないと感じている職員が半数近くおり、研修の更なる充実が課題になっています。
- ④ 園では全クラスが複数担任であり、クラス担任を決める際は正職員と非常勤職員の組み合わせになるように配慮し、非常勤職員の指導担当者はクラスリーダーです。非常勤職員もクラスミーティング・全体ミーティングへの参加、連絡帳の記入、午睡チェック等の役割を負い、クラス内でOJTができるようになっています。また、運営法人が作成し冊子の形態になっている、「保育基本マニュアル」は全職員に配布され、迷った時などに活用しています。

V-2 職員の技術の向上



- ① 「保育者自己評価表」によって保育士一人一人が自己評価を実施し、自分の状況を確認するとともに、全員の結果を統計処理して保護者に公表しています。自己評価は保育理念・子どもの発達援助・保護者に対する支援・保育士の自己評価の41項目と「自分の保育を振り返って」の自由記述から構成され、園長がコメントを記入しています。昨年度はほとんどの項目で、「よくできている」「ほぼできている」の結果でしたが、指導計画についてと研修への参加や知識・技能の向上についての項目で、「努力が必要」と答えた保育士が目立っていました。
- ② 各種指導計画や保育日誌・行事計画などすべてに「保育士の自己評価」「反省・評価」「反省・課題」「次年度に向けて記録しておく事項」などの欄が設けられており、保育実践の改善が意識できるようになっています。
- ③ 「子どもたちが園庭でも十分に遊びこめるように」を園の課題として、3年前に園庭改造のためのプロジェクトチームを立ち上げました。数多くあった植木を少なくし、園庭の土を子どもが喜んで遊べる「砂」にすべて変えています。何種類もの砂を吟味した結果、現在は園庭中がさらさらのきめの細かい砂でおおわれ、海岸にでもいるような感じになっています。毎年2トンの砂を購入して、保護者の協力を得て園庭に補充しています。園庭の改造は現在も続いています。

V-3 職員のモチベーションの維持



- ① 職員の経験や能力に応じての役割が明文化されたキャリアパス制度が職種ごとに設けられており、園長は人事考課の面談時に各職員の満足度や要望などを把握しています。園長は職員が輝いて楽しく保育していれば子どもたちも楽しい時間を過ごせるとして、経験の少ない職員でも本人の得意分野を活かして、行事などでは担当に抜擢して力が発揮できる機会をつくるように配慮しています。その結果、新鮮な発想で行事がより楽しく充実したものになっています。個人の意見を大切にしていきたいとの考えから、職員から各行事の良かった点、改善点、来年度に向けてなどのアンケートを取り、次年度の行事に繋げています。クラスミーティングでの提案があれば、全体ミーティングで取り上げ、「ほけんだより」や「給食だより」を看護師や栄養士が園独自のものを作成して保護者に配付するなど、各職員のモチベーションアップにつながるように努めています。

VI 経営管理

VI-1 経営における社会的責任



- ① 運営法人は企業理念に「子ども達の未来のために」を掲げ、東京・横浜・千葉・川崎に保育所や放課後対策事業を大規模に展開しています。ホームページや入園のしおり（重要事項説明書）には法人や本園の概要と運営情報などが公開されています。
- ② 運営法人では職員が心掛けるべき企業の信条である「クレド」を作成しており、本園では全体ミーティングの際に必ず唱和をして理解に努めています。また、コンプライアンス意識向上に役立つようにと、冊子「コンプライアンスハンドブック」を全職員に配付しています。冊子には企業理念をはじめ、行動規範・内部通報制度・保育施設の運営管理等が掲載されています。冊子配付に際しては2回に分けて法人職員が説明に訪れています。他園での不適切事例が報じられた時には、全体ミーティングで共有するほか、緊急性のある場合には業務連絡表などで速やかに職員に知らせています。
- ③ 各保育室には、廃材なども利用して作ったままごとハウスや牛乳パックを集めて作ったたくさんの椅子が大切に使われています。ゴミの分別はじめ裏紙・菓子箱は子どもの製作に使われ、外遊び用には古いお鍋を利用するなどしています。また、発注数をこまめに見直して給食の残飯をできるだけ少なくするなど心がけています。

VI-2 施設長のリーダーシップ・主任の役割等



- ① 運営法人は職員が心掛けるべき企業の信条である「クレド」を作成し、クレドが記載されたカードが全職員に配付されています。園では全体ミーティングの際に必ず唱和をして理解に努め、何か、問題にぶつかった際には「子どもたちのためになっているか」と立ち返る道しるべとなっています。
- ② 園には保護者の自主的な組織である保護者会はありませんが、各クラスの保護者代表が出席して年2回開催される運営委員会が、保護者と継続的に意見交換する場となっています。また、年間2回行われるクラごとの保護者会（クラス懇談会）も保護者との意見交換の場になっています。年長児の「お泊り保育」が諸事情により中止になった際には、臨時保護者会を開催して保護者と運営法人の担当者、園職員で話し合いを持ち、「スペシャルデー」として形を変えて実施することにしました。「子どもたちが園庭でも十分に遊びこめるように」を園の課題として、3年前に園庭改造のためのプロジェクトチームを立ち上げ、園全体で取り組んでいます。
- ③ 全クラスが複数担任でありクラスごとにクラスリーダーを置き、随時、リーダー会議を行ってリーダーとしての役割を全うし力量を高められるような体制が作られています。主任は幼児クラスの担任をしながら、毎朝、各クラスを回るとともに連絡帳にも目を通し、勤務表作成の役割を負って全体状況を把握しています。主任は経験が豊富で職員の体調不良時には早めに帰らせるなど配慮も行き届いて職員からの信頼も厚いものがあります。

VI-3 効率的な運営



- ① 理念実現のための事業運営に必要な情報収集や分析は運営法人が行っています。月1回法人内施設長会議が開催されて、保育運営に関する詳細にわたる連絡事項が伝えられています。全体での施設長会後のエリアごとの会議で横浜地域の情報が伝達されています。園長は持ち帰って全体ミーティングなどで全職員に周知し、伝達された事柄に取り組んでいます。

- ② 法人は事業開始以来10年になりますが、首都圏を中心に100ヵ所ほどの施設を開設しています。より広い視野を持ち、世界の様々な文化や言語に触れることで、自分の可能性を広げ保育者自身の成長が子供たちの夢につながっていくと考え、海外への職員研修を継続して実施しています。職員の感性を磨き、子ども中心の保育を取り入れて保護者の共感を得ています。また、外部からの意見を聞く機会として、園長を含む幹部職員は外部講師による勉強会を設けています。園では3年前に「3年計画」を作成していますが、計画の実行に必要な単年度の事業計画の作成には至っていません。

利用者本人調査

調査対象

園全体の在籍数：

0歳児クラス：9名

1歳児クラス：12名

2歳児クラス：12名

3歳児クラス：12名

4歳児クラス：12名

5歳児クラス：12名

調査概要

《0歳児クラス》

(朝の時間)

0歳児クラスは9人の園児たちに3人の保育士がついています。9時過ぎの0歳児は、落ち着いた様子でお気に入りのコーナーで遊び、保育士に抱っこしてもらったりなど穏やかに過ごしています。

長椅子からよろけそうになった子どもを保育士が、「危なかったわね!」と上手に抱きとめていきます。子どもはじっと見てニコッと笑ってくれる子ども、奇声をあげて歓迎してくれる子ども、そばに寄って来るなど様々です。

保育室のコーナーには、発達年齢にあった高さ、感触、安全性やつかまり立ちで自由に移動できる椅子やジャングルジムなどが置かれ、おもちゃの前に座って遊んでいます。

園舎内では滑って転倒しないようにと素足で過ごしています。職員以外の入室時には余計な病原菌を持ち込まないためにスリッパが用意されています。

(散歩から帰って)

0歳児の園庭からの入り口には、安全柵が取り付けられたベランダになっています。床面は足が冷たくないように敷物を敷いて、外遊びの汚れを落としたり、寄りかかって園庭を眺めたり、座り込んで遊びながら外気浴もできる多目的空間として利用しています。

子どもは、フェンスに寄りかかりながら、「ブーブ、イタ」と園庭のおもちゃの自動車を指さして教えてくれます。敷物もフェンスも職員の手作りで、職員の子どもたちへの温かい思いが伝わります。部屋が汚れて不潔にならないために、子どもたちはベランダで職員にズボンを脱がしてもらって、部屋に入り着替えをしています。

《1歳児クラス》

(朝の時間)

部屋には手作りの大きなままごとハウスが壁面に設置され、中は子ども数人が入って遊べるようになっています。ハウスには調理台、コンロ、鍋、お皿やお茶碗などままごと遊びに欠かせない道具が揃っています。プラスチック製のチェーンなどを使ってスパゲティやうどんなどに見立てて、子どもたちは発想し表現しています。

室内は絵本のコーナー、自動車や電車マップのマット、パズルやお絵かき、お茶を飲むテーブルコーナーなど沢山のコーナーが用意されています。それぞれの間仕切りには両側からおもちゃが取り出せるようになっております。

登園時間によって午前の水分摂取の時間を変えています。テーブルで保育士と一緒にパズルをしている子ども、絵本のコーナーでは一人で座り込んでみている子どもと様々です。保育士のゆっくりと優しい声で見守られながらみんなご機嫌よく遊んでいます。

(午前中の園庭)

道路に面し陽射しが差し込む園庭には、フェンスが設置されて、フェンスに面して桜・梅・ブドウ・ヤマモモなどが植えられています。園庭の角に小さな玩具・遊具の整理棚が設置され、子どもたちが整理しやすいように籠に「なわとび」「フライパン」など名前が書かれた籠が置いてあります。

また南側には小さな畑、西側には小さな砂場や築山があり、1歳児クラスと3・4・5歳児の混合(幼児)クラスが一緒に遊んでいます。

1歳児クラスは上着を着て帽子をかぶり、南側に陣取り、多くの子どもが本物の古いお鍋やコップなどを使って砂遊びをしています。Bちゃんが小さな手に砂を取り、「食べて」とでもいうように差し出してくれます。「ありがとう、おいしいね」などと言いながら食べる真似をすると、何回も運んでくれ、それを見ていた他の子どもたちも真似してごちそうしてくれました。

保育士は全体を見守りながらベランダをプラスチックぽっくりで歩いている子どもに「階段を歩くと危ないからやめてね。怪我をしないようにね。」と優しく注意しています。月齢の高い子どもにはぽっくりで歩ける子どももいると職員が話してくれました。保育士に促されて、Cちゃんが両手にぽっくりの紐をしっかりと握り、そろりそろりと得意そうに歩いて見せてくれます。

《2歳児クラス》

(散歩)

今日の朝の散歩は10人の園児に3人の保育士で行いました。10時から約1時間の園外保育活動です。子どもたちは、園庭遊びや災害時用の運動靴を履いておそろいのすみれ色の帽子を被り、手を繋いで園内の門前に集合です。

「今日は1丁目公園に行きます。」と保育士から伝えて出発です。歩いて15分ほどの公園です。何度も行っているのでしょう、保育士が歩行の安全を確かめながら子どもたちのおしゃべりや目に入る風景を楽しみながら歩いていきます。

途中で「花がない、葉っぱばかりだ。」「ホントだね。花が終わっちゃたね。」と民家の鉢植えをみながら残念そうに話していました。

しばらく行くと水道工事で小さなショベルカーが動いていました。子どもたちの安全のためにショベルカーはエンジンを止めてくれて、工事の人たちから「おはよう」と声をかけてもらいました。間近に見るショベルカーは興味津々です。刺激たっぷりの道中をゆっくりと楽しみながら公園に向かいました。

公園到着後、保育士が「小枝を持って走るの？」「ダメ～！」と子どもたち、「枝をお友達に向けるの？」「ダメ～」「おもちゃを持って走るの？」「ダメ～」「そうですね。他にお友達が来たら一緒に遊んでくださいね。では、好きに遊んでください。」と公園でのルールを話します。

話が終わるやいなやお気に入りの遊具、木登り、枯れ葉がいっぱいの場所へ突進しています。木登

りは順番に登らせて保育士がしっかり見守ります。遊具の周りでは、鬼ごっこが始まっています。この日の公園には至るところに霜柱が張っていました。子どもは土の中の氷を見つけて自慢げに保育士に見せに来ます。「うわ、氷だね、冷たいね。」それを見て同じように持ってくる子どもたち、子どもたちの手は赤くなって冷たそうです。それでも元気よく公園を自由に走り回って十分な運動と公園でのルールをしっかり身につけての園外保育活動でした。

《3・4・5 歳児クラス》

(英語プログラム)

園では幼児 36 人が異年齢（縦割り）での活動をしています。このクラスを年齢の低い子どもと高い子どもの 2 グループに分けて毎週 1 回、30 分「英語プログラムであそぼ」の時間を設けています。

ランチルームのテーブルを寄せて半円形に子どもが座ります。子どもたちは緊張する様子もなく、ふざける事もなく、元気に応答しています。端に座っている子どもに講師が見えやすいようにと、前に来て座るように促すと女の子数名がさっと前に来て、講師を見上げて、聞き漏らさないようにしています。

講師はネイティブの方で、日本語も堪能です。絵本や絵カードを使ってリズムを付けて講師が話すと、みな元気いっぱいに答えています。国旗当てクイズでは世界の国旗をパソコン画面に写して講師が指差すと、子どもが国の名前を答えます。子どもたちは元気に身体全身で答えています。

(室内遊び)

一つのグループが「英語プログラムであそぼ」をしている間は、もう一つのグループは部屋で自由に遊んですごしています。この部屋はロッカーで区切られ小さな扉で行き来ができるようになっています。室には 3 歳児と 4 歳児用のロッカーが向かい合わせでおいてあり、子どもたちが着替えるところが、他からは見えにくく配慮されています。5 歳児用のロッカーは部屋の奥にあり、園庭や道路から見えにくくなっています。

ベランダ側には、キーボードが置いてあり、自由に弾くこともあります。低いテーブルがいくつかおいてあり、子どもたちが数名ずつ自由に静かに遊んでいます。絵本を読んでいる子、大工さんに頂いたという六角形の木の型抜きのようなもので色鉛筆で様々な色に塗っている子、ブロック遊びの子などそれぞれに好きなことに夢中になっているようです。

保育士は特に言葉かけをしたりせず見守っています。おもちゃ棚の伝承遊びのコーナーにはけん玉、独楽、あやとり、カルタ、トランプなどが整理されて置いてあり、一人の女の子がけん玉をやって見せてくれます。「もしもしカメよ」を歌いながら失敗もなく最後まで楽々と操作してくれます。

棚の上には「タイトル」と書かれた小さなホワイトボードがあり、「おおなわ跳び」と「けん玉」の成功回数と名前が書かれてあります。けん玉をやって見せてくれた子どもは、おおなわ跳びでもタイトル保持者との事でした。

(外遊び)

英語プログラムが終わって園庭遊びでした。1 歳児も園庭に出ているので、園庭は元気な子どもでいっぱいになります。

フェンスの手前に植えられている太い木に次々と木登りしている子どもたちがいます。根元には自動車のタイヤが数個を置いてあり、登り易いようになっていて、保育士が 1 人そばについて声をかけ、ちょっと手を添えて危険が無いように見守っています。

木登り用の木のそばには細い木があり、この木に長い縄跳び紐を結わえて別の保育士が反対側を持って回してあげています。子どもたちは木の後ろ側に列を作って並び跳んでいる子の数を数えています。

この大縄跳びで一番多く飛んだ順位が、保育室内のボードに書き込まれます。この順位は常に更新され、順位は日々に入れ替わります。縄跳びの横は小さな築山になっていて、年少らしき子どもがプラスチックの小さなそりで滑り降りようとしています。

玄関前は少しスロープになっていて、1歳児が小さな自動車に乗って前に進もうするのを、年長の子どもが押してあげている姿もあります。Eちゃんが3歳の妹が同じクラスにいると得意そうに紹介してくれて、異年齢児クラスの良さが感じられます。保育士が特に指示したり注意したりせずに、自然に様々な遊びが展開されています。

《全クラスの食事場面》

(ランチルームでの食事)

食事は、0歳児から5歳児まで長方形型のランチルームで行い賑やかな食事です。ランチルームには家庭やレストランで見かけるようなテーブル・椅子セットとクラスにあるような丈の低いテーブルと椅子の2種類が使われており、まるでレストランのような雰囲気があります。

0歳児クラスは安全ベルトをつけたレストランで見かけるような椅子に座って食べます。食器やスプーンは園で用意した年齢に合った大きさのものが使われ、ビニール袋入りのおしぼりも用意されています。レンタルのおしぼり使用は清潔であり、保護者に無料で提供されているため、負担軽減につながっているようです。

基本に「子ども中心の保育」を考え、一斉にそろってではなくて早く登園しておなかのすいた子どもや遊びが一区切りした子どもなどから食べ始め、席も子どもたちが自由に選んでいます。

保育士がホワイトボードに書いた献立を示しながら、今日の献立について子どもたちに説明し、その後「いただきます」をして食事を始めます。今日の献立はマーボー丼とスープ・ワカメとキュウリの酢の物・リンゴでした。この時期は0歳児も普通食に移行しており、酢の物は細かく刻み、リンゴは薄切にしてあります。

子どもたちはエプロンをかけて、ほとんどの子どもが自分ですくって口元に運んでいます。保育士は子どもの目線の高さにしゃがみ、食の進まない子には介助して、言葉かけして見守っています。

1歳児、2歳児グループは低いテーブルに足が床につく椅子に座り、食事をします。幼児クラスの子どもたちは「美味しいからこれから食べて」と食べる順番や妹と一緒にいるなどは話ながら楽しい食事です。

食べ終わると下膳をします。決まった場所に残したものを入れるバケツが用意されています。茶碗などは下膳台に置きます。みな慣れた手つきで置いて下膳します。「それはここに捨てるの」「それはココ」と教え合っています。保育士は子どもたちの食事を安全に見守れるようにしており、子どもたちとは別にそれぞれの休憩時間に食事をとっています。

家族アンケート結果

アンケートの概要

1. 調査対象

利用者の全家族

2. 調査方法

アンケートは評価機関で準備をして保育園から配布してもらいました。回答は家族から郵送にて直接に評価機関に送っていただきました。

3. アンケート発送数等

発送数：	60 通	返送数：	30 通	回収率：	50%
クラス：	0歳児： 5 通	1歳児：	5 通	2歳児：	6 通
	3歳児： 5 通	4歳児：	3 通	5歳児：	6 通

4. 全体をとおして

利用者の全家族（60通）にアンケートを配り、50%の家族から回答を得ました。

アンケートの回答者からの「保育園を総合的に評価した満足度」では、「満足」が57%で、「どちらかといえば満足」を含めると100%の保護者が満足している状況です。

個別に「満足」が高い項目は、「お子さんが保育園生活を楽しんでいる」で「満足」が80%となっています。その他に「子どもが戸外遊びを十分しているか」「事前に触れたり地域に関わるなど園外活動」についても「満足」が77%を占めています。これらは「どちらかといえば満足」を含めると90%を超え、子どもが楽しく戸外などで楽しんでいると保護者は満足しています。その反面で「満足」の回答が低い項目は「年間の保育や行事に、保護者の要望が活かされているか」であり、「不満」はありませんが「満足」は30%に留まっています。

「不満」の多い項目では、「感染症の発生状況や注意事項などの情報提供」10%、「外部からの不審者侵入を防ぐ対策」7%の保護者が不満を持っています。

アンケートの自由記入欄には、「職員に好感が持てる」「温かく、愛情をもって接してくれる」などの感謝の言葉が多く寄せられています。その一方で「感染症での情報提供」「病気による登園の不可」などに対する意見もあります。

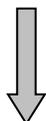
保護者は総合的に満足しているものの、一部には情報提供や説明について十分と認識していない面もあります。保護者への伝達や説明方法に工夫を行い、保護者に納得してもらえる活動が期待されます。

□ アンケート結果

■ 保育園の基本理念や基本方針について

問1 あなたは、この園の保育目標・保育方針をご存知ですか

1 よく知っている	3 どちらともいえない	4 あまり知らない
2 まあ知っている		5 まったく知らない



1	2	3	4	5	無回答
13.3%	60.0%	13.3%	13.3%	0.0%	0.0%

付問1 【「1 よく知っている」または「2 まあ知っている」とお答えの方】

あなたは、その保育目標や保育方針は賛同できるものだと思いますか。

1 賛同できる	3 どちらともいえない	4 あまり賛同できない
2 まあ賛同できる		5 賛同できない

1	2	3	4	5	無回答
54.5%	36.4%	4.5%	4.5%	0.0%	0.0%

■ 保育園のサービス内容について

問2 お子さんが入園する時の状況について

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
見学の受け入れについては	66.7%	20.0%	0.0%	0.0%	13.3%	0.0%
その他: 見学していないのでわからない、新設なので見学していない、						
入園前の見学や説明など、園からの情報提供については	56.7%	30.0%	3.3%	3.3%	6.7%	0.0%
その他: 新設なので見学等していない、						
園の目標や方針についての説明には	53.3%	43.3%	0.0%	0.0%	3.3%	0.0%
その他:						
お子さんの生育歴などを聞く対応には	66.7%	20.0%	0.0%	0.0%	10.0%	3.3%
その他: 覚えていない、						
保育園での一日の過ごし方についての説明は	60.0%	40.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
その他:						
入園後に食い違いがなかったかなどもも含め、費用やきまりに関する説明については	63.3%	30.0%	3.3%	0.0%	3.3%	0.0%
その他:						

問3 保育園に関する年間の計画について

	満足	どちらかといえは満足	どちらかといえは不満	不満	その他	無回答
年間の保育や行事についての説明には	50.0%	46.7%	3.3%	0.0%	0.0%	0.0%
	その他:					
年間の保育や行事に、保護者の要望が活かされているかについては	30.0%	33.3%	23.3%	0.0%	13.3%	0.0%
	その他: 要望する機会がない、わからない					

問4 日常の保育内容について

「遊び」について	満足	どちらかといえは満足	どちらかといえは不満	不満	その他	無回答
クラスの活動や遊びについては (お子さんが満足しているかなど)	60.0%	23.3%	6.7%	3.3%	6.7%	0.0%
	その他: わからない					
子どもが戸外遊びを十分しているかについては	76.7%	20.0%	3.3%	0.0%	0.0%	0.0%
	その他: わからない					
園のおもちゃや教材については (お子さんが自由に使えるように置いてあるか、年齢にふさわしいかなど)	70.0%	23.3%	3.3%	0.0%	0.0%	3.3%
	その他:					
自然に触れたり地域に関わるなどの、園外活動については	76.7%	16.7%	6.7%	0.0%	0.0%	0.0%
	その他:					
遊びを通じて友だちや保育者との関わりが十分もっているかについては	70.0%	30.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	その他:					
遊びを通じたお子さんの健康づくりへの取り組みについては	50.0%	36.7%	6.7%	0.0%	6.7%	0.0%
	その他: あるかどうかわからない					

「生活」について	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
給食の献立内容については	66.7%	13.3%	13.3%	3.3%	3.3%	0.0%
	その他:					
お子さんが給食を楽しんでいるかについては	66.7%	26.7%	3.3%	3.3%	0.0%	0.0%
	その他:					
基本的な生活習慣（衣服の着脱、手洗いなど）の自立に向けての取り組みについては	63.3%	30.0%	3.3%	0.0%	3.3%	0.0%
	その他:まだ時期ではない					
昼寝や休憩がお子さんの状況に応じて対応されているかなどについては	63.3%	23.3%	10.0%	0.0%	3.3%	0.0%
	その他:					
おむつはずしは、家庭と協力し、お子さんの成長に合わせて柔軟に進めているかについては	46.7%	16.7%	6.7%	3.3%	23.3%	3.3%
	その他:まだ取り組んでいない、					
お子さんの体調への気配りについては	66.7%	30.0%	0.0%	3.3%	0.0%	0.0%
	その他:					
保育中にあったケガに関する保護者への説明やその後の対応には	53.3%	26.7%	13.3%	3.3%	3.3%	0.0%
	その他:ケガしたことがない、					

問5 保育園の快適さや安全対策などについて

	満足	どちらかといえは満足	どちらかといえは不満	不満	その他	無回答
施設設備については	50.0%	30.0%	13.3%	3.3%	3.3%	0.0%
	その他:					
お子さんが落ち着いて過ごせる雰囲気になっているかについては	56.7%	33.3%	6.7%	0.0%	3.3%	0.0%
	その他:					
外部からの不審者侵入を防ぐ対策については	40.0%	33.3%	20.0%	6.7%	0.0%	0.0%
	その他:					
感染症の発生状況や注意事項などの情報提供については	46.7%	33.3%	6.7%	10.0%	3.3%	0.0%
	その他:					

問6 園と保護者との連携・交流について

	満足	どちらかといえは満足	どちらかといえは不満	不満	その他	無回答
保護者懇談会や個別面談などによる話し合いの機会については	50.0%	36.7%	6.7%	3.3%	0.0%	3.3%
	その他:					
園だよりや掲示などによる、園の様子や行事に関する情報提供については	56.7%	33.3%	3.3%	3.3%	3.3%	0.0%
	その他:よくわからない					
園の行事の開催日や時間帯への配慮については	70.0%	26.7%	3.3%	0.0%	0.0%	0.0%
	その他:					
送り迎えの際のお子さんの様子に関する情報交換については	40.0%	36.7%	23.3%	0.0%	0.0%	0.0%
	その他:					
お子さんに関する重要な情報の連絡体制については	56.7%	26.7%	13.3%	0.0%	0.0%	3.3%
	その他:わからない					
保護者からの相談事への対応には	50.0%	40.0%	6.7%	3.3%	0.0%	0.0%
	その他:					
開所時間内であれば柔軟に対応してくれるなど、残業などで迎えが遅くなる場合の対応には	63.3%	23.3%	3.3%	3.3%	3.3%	3.3%
	その他:わからない					

問7 職員の対応について

	満足	どちらかといえは満足	どちらかといえは不満	不満	その他	無回答
あなたのお子さんが大切にされているかについては	73.3%	23.3%	3.3%	0.0%	0.0%	0.0%
	その他:					
あなたのお子さんが保育園生活を楽しんでいるかについては	80.0%	16.7%	0.0%	0.0%	3.3%	0.0%
	その他:わからない					
アレルギーのあるお子さんや障害のあるお子さんへの配慮については	53.3%	13.3%	0.0%	0.0%	26.7%	6.7%
	その他:状況を知らない、該当しないのでわからない					
話しやすい雰囲気、態度であるかどうかについては	70.0%	30.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	その他:					
意見や要望への対応については	46.7%	36.7%	10.0%	3.3%	0.0%	3.3%
	その他:					

問8 保育園を総合的に評価すると、どの程度満足しているか

	満足	どちらかといえは満足	どちらかといえは不満	不満	無回答
総合満足度は	56.7%	43.3%	0.0%	0.0%	0.0%

事業者コメント

事業者名：グローバルキッズ日吉園

開園して7年目を迎えるにあたり2度目の第三者評価を受けさせていただきました。

今回2回にわたり園を訪問していただきとても丁寧に園を観ていただいたことに感謝しております。

園で大切にしていること「ひとり一人に合わせた保育」「一つの家庭のような保育」を保護者の方にもご理解いただいていることが確信でき、職員一同嬉しく思っています。

また、園だけではなく地域の方々へも開かれた園作りをしていかなければならないという課題も見えてきました。

「子ども達の未来のために」という企業理念を心にしっかりと持ち、子育てしやすい社会になるよう今一度職員と話し合い、私達にできることを考え日々のお保育に活かしてまいりたいと思います。

アンケートにご協力いただきました保護者の皆様、親身になって寄り添ってお考えくださった評価機関の皆様、7年間で振り返る良い機会となりました。

本当にありがとうございました。

グローバルキッズ日吉園 園長 金子 由理



株式会社フィールズ
〒251-0024 藤沢市鵜沼橋1-2-7 湘南リハウスビル4F
TEL : 0466-29-9430 FAX : 0466-29-2323